

ふんばれ浜のかあちゃん  
～私たちの女性部活動～

天草漁業協同組合女性部  
川 端 延 代

1. 地域の概要

私が住む天草市は、平成18年3月27日に2つの市と8つの町が合併し誕生した。面積は683 km<sup>2</sup>と県内最大で、世帯数3万5,447、人口約9万6,000人である。

天草市は、本県の南西部に位置しており、周囲を藍く美しい海に囲まれた天草上島と天草下島及び御所浦島などの天草諸島からなり、私は東シナ海に面する天草町地域に住んでいる(図1)。

地域は、温暖な気候を活かした農業や、豊かな水産資源を活かした漁業を基幹産業として発展してきた。また、自然景観、南蛮文化やキリシタンの歴史など、多くの観光資源にも恵まれている。

2. 漁業の概要

私が所属する天草漁業協同組合は、平成17年4月1日に5つの漁協が合併し、正組合員3,753人、準組合員2,266人。合計の組合員数は6,000人を超える県内最大の漁協として発足した(図2)。

私たちは天草町支所に所属し、組合員数は正准合わせると124名である。主な漁業は、手繰り網(小型底曳網)、定置網、刺網、一本釣である。

3. 研究グループの組織と運営

部員は、手繰り網(小型底曳網)、定置網、刺網、一本釣りなどの漁業、漁協の加工部門、漁業をやめたOBの計33名で構成、うち5名はこれら以外の仕事にも従事している。このように仕事が多岐にわたるため、活動できる季節や時間帯が部員によって異なり、日程の調整に苦慮しながら部を運営している。

4. 研究・実践活動取組課題選定の動機

後継者不足により新規加入が殆どなかったことや高齢化による脱会もあって、部員数は、平成6年度95人もいたが、この12年間で3分の1に減少した。

また、市や漁協からの助成金が少なくなるなど、女性部を取り巻く環境は厳しく、停滞ムードが漂っていた。

しかし、浜の活力を失わせないためには、私たち女性部が積極的な活動を続けることが重要であると考え、停滞ムードを吹き飛ばそうと、地域内外のイベント等へ積極的に参加するようになった。

後継者不足や高齢化は全国的な傾向・問題であり、活動が低迷する中、漁村の活性化のために「女性部がふんばっていくことが大事」であることを伝えたいと思った。

5. 研究・実践活動状況及び成果

私たちは、女性部の活動の活性化を図るため、以前から実施している活動項目(☆印)に加え、

本年度から新たに6項目(★印)を追加し、以下の計12項目について、活動を実践した。

(1)貯蓄や共済加入の推進(☆)

新たな貯蓄や共済加入が殆どないため、最近、漁協の定期積立貯金の集金業務に協力しており、毎月、組合員や一般の家庭を一軒一軒廻っている。お年寄りからは、私たちが来るのを楽しみにされるようになった。また、満期を迎えたお年寄りに「積み立ててよかったよ、孫に小遣いをやれるし、いざという時のためになるよ」と言われたときは、活動をしていて良かったと思った。

(2)美しい海を守る運動の推進(☆)

今年7月16日に天草町支所は、総勢300名、うち私たちを含め女性140名が海浜清掃に参加し、8kmにわたる海岸の天然・人工のゴミを回収した。また、きれいな海を残すため、海的环境にやさしい洗剤や石けん、シャンプー、歯磨きなどを色々な人に薦めている。

海浜清掃作業や環境にやさしい洗剤等の使用を推進することで、親の背中を見せることにより「自分たちの漁場は自分たちで守る」という意識を、子供たちに伝えることができた。

(3)地域イベント等への参加

私たちは以下のイベントにおいて、「ウチワエビ」をメインの具材として、それに魚のすり身、白菜、ニンジンなどを加え、味噌仕立てにした汁物、「海賊鍋」を販売した(図3)。

たいした収入にはならなかったが、部員と共同作業の楽しさを分かち合いながら、地元の食材で作った料理を集まって来られた人たちに提供することで、魚食普及や地域内外の活性化に微力ながら貢献できた。

①あったか椿まつり(☆)

天草町の西平椿公園周辺には自生や世界中から取り寄せた2万本の椿があり、色とりどりの花を咲かせる3月に町内外から2,700人が訪れた。

②じゃがじゃが祭(☆)

4月、天草町の公園において、ジャガイモ掘り、ウナギのつかみ取り、いかだレースなど、大人も子供も楽しめるイベントがあり、町内外から3,500人が訪れた。

③お城まつり(★)

10月、熊本城(熊本市)において、市民文化活動の発表やコンサート、観光物産展など多彩なイベントがあり、7万人が訪れた。

④地域文化祭(★)

11月、天草町の交流施設において、100人が参加した。ここでは海賊鍋を販売した他、女性部としてフリーマーケットに参加し、微々たる額であるが活動資金を捻出できた。

(4)研修事業及び自己研鑽等

①研修事業(☆)

活動の幅を広げるため、他県の女性部の水産物等の製造・販売等活動の実態を研修した。他の県の女性部も、高齢化による部員の減少など、私たちと同じ環境にあるにもかかわらず、バイタリティ溢れる活動を行っていることに刺激を受けた。また、お金をかけずに上手に製品のPRをされている点が参考になった。

②魚食普及コンテストへの出品(☆)

魚食普及の一環として、熊本県魚食普及推進協議会が主催している魚食普及コンテストに、地元の食材を使った料理「海鮮いろいろカナッペ」など2品目を応募した。今年、出品前に女性部内で予選会を行ったことが功を奏したのか2位に入賞、今後の励みになった。引き続き、次年度以降も参加し、地元の食材を紹介していきたい。

### ③生け花教室（★）

生け花の免許を持つ部員により生け花教室を開催した。自己研鑽を図るとともに部員の親睦を深めることができた。

### ④地元食材を活かした寿司パーティー（★）

総会后、各部員が地元の食材を持ちより「手作り寿司パーティー」を開催した。ちょっとした工夫で部員の親睦を深めることができた。

### ⑤お花いっぱい運動（★）

漁協、集会場など人の集まる場所に葉ボタン、デージーなどの花を植え、美しい地域づくりに努めた。

### (5) 地元の魚を題材としたカルタ作り（★）

地元で獲れる魚の一覧やカルタの見本を作って、地元の小中高校生各学校に配付し、お魚のカルタ作りに取り組んだ（図4）。

まだ、完成には至っていないが、カルタ作りを通じて、地元で漁獲される魚の特徴や名前を覚えることで、子供たちの漁業や海への関心を高めることができた。

## 6. 波及効果

部員数は減少したものの、地域内外の色々なイベント活動に参加し、部員と共同作業を行うことで、以前にも増して部員間の結束力が強まった。その結果、地元の魚を題材としたカルタ作りなど新たな取り組みを手がけるようになり、学校の先生との交流も深まるなど、女性部の活動の幅が広まってきた。

今、漁村は漁獲量の減少や魚価の低迷で活力が失われつつあるが、私たち女性部が「ふんばる」ことで、微力ながら浜の活性化が図られたと思う。

## 7. 今後の課題や計画と問題点

今後も積極的に地域内外のイベント等に参加し、少しでも地域の活性化に貢献できるよう、活動の幅を広げていきたい。

また、地域イベントとして、自分たちで作ったカルタを使ってカルタ大会が開催できるよう盛り上げていきたい。そして、子供たちに遊びの中で漁業に関心を持ち、海の恵みを知り、美しい海を守っていくことの大切さを伝えたい。

平成18年3月27日 2市8町が合併「天草市」誕生！



面積 683 Km<sup>2</sup>  
 人口 9万6,477人  
 世帯数  
 3万5,447世帯

図1 地域の概要

平成17年4月1日 5つの漁協が合併  
 天草漁業協同組合が誕生！！



正組合員 3,753人  
 準組合員 2,266人  
 合計 6,019人

図2 漁業の概要



図3 地域イベントにおける海賊鍋の販売

天草町沖で見かけられる魚たちで  
 カルタを作ってみよう！

図の見方



かます(アカカマス)

↑ ↑  
 天草町の呼び名 一般的な呼び名

【れいだい】

ろけつとの  
 かわりに  
 なるかも  
 アカカマス！



← みんなは、もっと  
 おもしろい絵を  
 描いてね！

図4 地域の魚を題材とした  
 カルタ作り (見本)